

平成29年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省29-22)

施策名	5-1.基盤的施策の実施及び国際的取組					
施策の概要	生物多様性国家戦略を始めとする自然環境保全のための政策の策定、及びそのために必要な情報の収集・整備・提供を行う。また、国際的枠組への参加等を通じて地球規模の生物多様性の保全を図る。					
達成すべき目標	生物多様性国家戦略2012-2020に基づき、各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。また、国際的枠組への参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全を図る。					
施策の予算額・執行額等	区分	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (百万円)	当初予算(a)	1,399	1,375	1,272	1,116
		補正予算(b)	▲1	0	0	-
		繰越し等(c)	0	0	(※記入は任意)	
		合計(a+b+c)	1,398	1,375	(※記入は任意)	
執行額(百万円)	1,331	1,281	(※記入は任意)			
施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	生物多様性国家戦略2012-2020 (平成24年9月28日 閣議決定)					

測定指標	「生物多様性」の認識状況	基準値	実績値					目標値	達成
		16年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	31年度	-
		30%	-	46%	-	-	-	75%	
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-		
	生物多様性地域戦略策定 済自治体数(都道府県)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		23年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	32年度	-
		18都道府県	32	35	39	40	42	47	
		年度ごとの目標		-	-	-	-	-	
	生物多様性国家戦略 2012-2020に定める我が 国の国別目標の関連指標 の改善状況	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		22年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	32年度	-
		-	-	54%	70%	74%	集計中	100%	
		年度ごとの目標		-	-	-	-	-	
	全国の1/2.5万地形図面 数に対する植生図整備図 面数の割合[整備図面数/ 全国土図面数]	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		18年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	32年度	○
		国土の35%	69%	72%	77%	80%	84%	100%	
年度ごとの目標			68%	72%	77%	80%	84%		

評価結果	目標達成度合いの 測定結果	(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり
	(判断根拠)	<p><生物多様性保全のための政策の策定及び必要な情報の収集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知目標達成に向け、平成28年11月に、これまでの進捗状況を踏まえて一層強化する取組等をまとめた「生物多様性国家戦略2012-2020の達成に向けて加速する施策」を公表した。なお、我が国の国別目標の関連指標は、概ね改善傾向にある。 ・生物多様性地域戦略については、平成30年5月時点で把握しているものとして、42都道府県が策定しており目標に近づいている。 ・植生図の整備図面数は、平成29年度末時点で、国土の84%の整備が完了し、着実に成果をあげている。なお、平成30年度から「(環境省30-①)環境に配慮した再生可能エネルギー導入のための情報整備事業」において実施する。 ・平成28年3月に策定した「サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020」を推進するため、サンゴ礁生態系保全モデル事業の実施やフォローアップワークショップ及びシンポジウム等を開催した。 <p><生物多様性に関する国民への普及啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内閣府世論調査によれば、平成24年度の生物多様性の認知度は56%と、調査対象の過半数に認識されていたものの、平成26年度には46%に低下した。 ・多様なセクターにより構成される「国連生物多様性の10年日本委員会」(事務局:環境省)において、各セクター間の情報交換を目的とした全国ミーティングや地域フォーラムの開催、委員会が推奨する連携事業の認定、生物多様性の認知度向上のための普及啓発ツールの利用促進等を実施した。 ・事業者の民間参画を促進するため、平成29年10月、8年ぶりに「生物多様性民間参画ガイドライン」を改定した。また、企業の生物多様性保全活動による貢献度の評価を試行した。 ・平成29年5月に策定した名古屋議定書の国内措置である「遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する指針」の普及のため、全国説明会を開催した。 <p><国際的枠組への参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・IPBES(生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム)第6回総会(平成30年3月・メデジン)及び関連会合へ専門家を派遣し、評価報告書等の成果物への知見提供・情報収集等を行った。また、国内連絡会を開催し、収集した情報等を専門家・他省庁等に共有した。 ・ICRI(国際サンゴ礁イニシアティブ)東アジア地域会合を平成20年から毎年開催し、ICRI東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略2010の実施を主導。平成28年度からは地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク東アジア会合を開催し、東アジアにおける地域解析の促進に貢献している。 ・生物多様性条約第21回科学技術助言補助機関会合(SBSTTA21)並びに第10回条約第8条(j)項及び関連条項に関するアドホック公開作業部会(WG8(j)10)に参加し(平成29年12月・カナダ)、情報収集を行った。また、名古屋議定書については、平成29年5月に、国内措置を策定し、締結に至った(同年8月国内発効)。 ・南極条約協議国会議(平成29年5、6月・中国)に積極的に参画することにより、南極地域の環境保護に向けた国際的取組に貢献した。

施策の分析	
次期目標等への反映の方向性	

学識経験を有する者の知見の活用	・モンゴルにおける砂漠化対処のあり方の検討にあたり、学識経験者が入った調整会議を開催し、助言を得た。サンゴ礁生態系保全行動計画の進捗フォローアップや現地調査等にあたり、学識経験者の参画を依頼し、学識経験者の知見を活用した。
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模生物多様性概況第4版 ・平成26年度環境問題に関する世論調査 ・平成29年度国際サンゴ礁イニシアティブ及び地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク東アジア地域解析推進調査業務報告書 ・平成29年度サンゴ礁生態系保全モデル事業報告書 ・平成28年度地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク東アジア地域解析推進調査業務 ・平成28年度乾燥地(モンゴル)における砂漠化対処普及啓発支援業務報告書
---------------------------	--

担当部局名	自然環境計画課	作成責任者名 (※記入は任意)	奥田 直久	政策評価実施時期	
-------	---------	--------------------	-------	----------	--